

年次学術集会における「指導医講習会」の受講証明について

日本専門医機構による、専門医制度における指導医研修体制の整備指導に基づく講習会です。受講証明を受けるためには、1と2の二講演を連続して聴講する必要があります。

講習の始まる前に、単位受付で指導医講習会受講カードを購入してください（2講演2,000円）。事前登録をされた方には、5月下旬ごろに学術集会参加証とともに指導医講習会受講カード・受講証明書を郵送いたします。

受講カードに必要な事項をすべてご記入の上で、講演終了時に受講した会場の回収箱に提出してください。なお、受講カードを提出しなかった場合単位認定されませんのでご注意ください。複数の受講カードを同じ回収箱に提出した場合は、1枚のみが有効となります。受講証明書は、各自で保管してください。

受講カード・受講証明書の再発行はできませんので、あらかじめご了承ください。

種別	日	時間	会場	定員 (中継会場を含む)	講演名
指導医講習会1	6月10日(土)	15:00~16:00	第4会場 (岡山県医師会館)	700名	自験例から考える脳機能画像とリハビリテーション—指導医の知っておくべき知識—
指導医講習会2	6月10日(土)	16:10~17:10	第4会場 (岡山県医師会館)	700名	運動学習に関して指導医が知っておくべき知識

※正会員のみ受講受付します。

※日本リハビリテーション医学会以外への受講証明書は発行できません。あらかじめご了承ください。

※指導医講習会では、認定臨床医の単位は取得できません。

※会期中、先着順により単位受付で申込みを受け付けます。

※中継会場は、第6会場および第7会場（ANAクラウンプラザホテル岡山）を予定しています。

医療倫理・医療安全・感染対策講習会について

新専門医制度において、日本専門医機構がすべての基本領域専門医に共通して受講する項目として定めているものに対し、本学術集会が開催するもので、有料講演（1講演2,000円）となります。

講習の始まる前に、単位受付で規定講習会受講カード（医療倫理：青色、医療安全：クリーム色、感染対策：緑色）を購入してください。事前登録をされた方には、5月下旬ごろに学術集会参加証とともに受講カード・受講証明書を郵送いたします。

受講カードに必要な事項をすべてご記入の上で、講演終了時に受講した会場の回収箱に提出してください。なお、受講カードを提出しなかった場合単位認定されませんのでご注意ください。複数の受講カードを同じ回収箱に提出した場合は、1枚のみが有効となります。受講証明書は、各自で保管してください。

受講カード・受講証明書の再発行はできませんので、あらかじめご了承ください。

種別	日	時間	会場	定員	講演名
感染対策	6月10日(土)	9:00~10:00	第10,11会場 (ホテルグランヴィア岡山)	600名	肺炎の診断と治療—高齢者・障害者の誤嚥性肺炎：医療・介護関連肺炎を中心に—
医療倫理	6月10日(土)	10:10~11:10	第10,11会場 (ホテルグランヴィア岡山)	600名	終末期ケアにおけるリハビリテーションと倫理的課題
医療安全	6月10日(土)	11:20~12:20	第10,11会場 (ホテルグランヴィア岡山)	600名	脳卒中への対応：課題と解決への試み

※正会員のみ受講受付します。

※日本リハビリテーション医学会以外への受講証明書は発行できません。あらかじめご了承ください。

※規定講習会では、認定臨床医の単位は取得できません。

※会期中、先着順により単位受付で申込みを受け付けます。

生涯教育研修の単位認定について

本学術集会において取得できる、日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医生涯教育単位は以下のとおりです。

1. 学術集会参加：20単位

日本リハビリテーション医学会専門医・認定臨床医は、学術集会参加によって生涯教育単位が20単位取得できます。

学術集会参加カード（ピンク色）を、参加登録時に受付でお渡しします。事前登録をされた方には、5月下旬ごろに学術集会参加証とともに参加カード・参加証明書を郵送いたします。

参加カードに必要な事項をすべてご記入の上、受付に設置の所定の回収箱に提出してください。なお、参加カードを提出しなかった場合単位認定されませんのでご注意ください。参加証明書は、各自で保管してください。

学術集会参加カード・参加証明書の再発行はできませんので、あらかじめご了承ください。

2. 教育研修講演、規定講習会および指導医講習会（専門医）：1講演10単位

日本リハビリテーション医学会専門医は、招待講演、特別講演、教育講演、共催セミナー（ランチョン）の受講によって、単位（新専門医制度における診療領域別講習）を取得することが可能です。また、規定講習会（医療倫理、医療安全、感染対策）および指導医講習会の受講によって、単位（新専門医制度における専門医共通講習）を取得することが可能です。あわせて1日で最大60単位、3日間で最大120単位を取得できます。（単位取得可能な講演一覧はこちら、規定講習会および指導医講習会についてはこちらをご確認ください）

受講カードは、単位受付で受講前に購入してください。事前登録をされた方には、5月下旬ごろに学術集会参加証とともに受講カード・受講証明書を郵送いたします。

受講カードに必要事項をすべてご記入の上で、講演終了時に受講した会場の回収箱に提出してください。なお、受講カードを提出しなかった場合単位認定されませんのでご注意ください。複数の受講カードを同じ回収箱に提出した場合は、1枚のみが有効となります。受講証明書は、各自で受講した講演名を記録して保管してください。

受講カード・受講証明書の再発行はできませんので、あらかじめご了承ください。

講演の種別によって受講料や受講カードが異なります。下記表でご確認ください。

講演種別	受講料	受講カード
招待講演，特別講演，教育講演，共催セミナー（ランチョン）	1,000 円／1 講演	専門医：白色
規定講習会（医療倫理，医療安全，感染対策）	2,000 円／1 講演	医療倫理：青色 医療安全：黄色 感染対策：緑色
指導医講習会	2,000 円／2 講演	指導医講習会：灰色

なお、新専門医制度における、機構認定専門医としての更新に関しては、日本リハビリテーション医学会 HP（「新専門医制度について」の中の「リハビリテーション科専門医更新基準」）を参照してください。

3. 教育研修講演（認定臨床医または認定臨床医受験資格取得）：1 講演 10 単位

日本リハビリテーション医学会認定臨床医，または認定臨床医試験受験を検討中の方は，外国人招待講演，特別講演，教育講演，共催セミナー（ランチョン）の受講によって，単位を3日間で最大50単位まで取得することが可能です。

受講カードは，単位受付で受講前に購入してください（1,000 円／1 講演）。事前登録をされた方には，5月下旬ごろに学術集会参加証とともに受講カード・受講証明書を郵送いたします。

受講カードに必要事項をすべてご記入の上で，講演終了時に受講した会場の回収箱に提出してください。なお，受講カードを提出しなかった場合単位認定されませんのでご注意ください。複数の受講証を同じ回収箱に提出した場合は，1枚のみが有効となります。受講証明書は，各自で受講した講演名を記録して申請時まで保管してください。

講演種別	受講料	受講カード
招待講演，特別講演，教育講演，共催セミナー（ランチョン）	1,000 円／1 講演	認定医：白色 認定医受験資格取得：オレンジ色

※規定講習会，指導医講習会では，認定臨床医の単位は取得できません。

単位取得可能講演については，p.S32～S34 をご覧ください。

日本リハビリテーション医学会以外の単位について

本学術集会では、以下の学会・団体の単位が取得可能です。詳細は各学会・団体のホームページなどでご確認ください。

1. 教育研修講演などの受講により単位取得可能な学会・団体について

1) 日本整形外科学会 教育研修講演 1講演：1単位

対象の特別講演，対象の教育講演，対象のランチョンセミナーは，日本整形外科学会の教育研修講演に認定されています。1講演1単位（1,000円）で，1日最大4単位，学会期間中最大6単位まで取得可能です。参加受付付近の記名台に受講申込書をご用意しておりますので，申込書に必要事項をご記入の上，受講料を添えて教育研修講演受付にてお申ください。

受講証明（専門医対象）：

- ① 講演開始10分前から，開始後10分までに日本整形外科学会のIC会員カードまたは仮ICカードを講演会場入口のカードリーダーにかざして出席登録を行ってください。講演開始10分を過ぎて手続きが完了していない場合，途中退場された場合は，単位取得はできません。
- ② 学術集会終了から1週間程度で，日本整形外科学会ホームページの専門医制度取得単位照会システムに反映されますので，ご自身の取得状況を確認できます。

受講証明（非専門医対象）：

研修手帳をお持ちの方も，日本整形外科学会のIC会員カードで出席確認を行うため，日本整形外科学会ホームページの会員専用ページの単位取得履歴に記録が残ります。このため，受講証明印を受ける必要はありません。該当する必須分野のページに必要事項を記入し，受講証明印の欄に「会員カード」または「HP参照」と記入してください。更新時には，ホームページ上の取得履歴と照合いたします。

単位取得可能講演については，p.S32～S34をご覧ください。

2. 学術集会への参加，発表などにより単位取得可能な学会・団体について

単位申請については，各学会・団体にご確認の上，ご自身で行ってください。

学会名	学術集会参加による取得単位	その他
日本リウマチ学会	3 単位	
日本神経学会	1 単位	
日本臨床神経生理学会	5 ポイント	
日本老年医学会	5 単位	
日本脳卒中学会	5 単位	
日本摂食嚥下リハビリテーション学会	10 単位	
日本心臓リハビリテーション学会	5 単位	
日本緩和医療学会	3 単位	
日本呼吸器学会	5 単位	発表：3 単位
日本頭痛学会	5 単位	
日本老年精神医学会	4 単位	
日本小児神経学会	2 単位	発表：3 単位，共同演者：1 単位
日本認知症ケア学会	3 単位	発表：2 単位
日本作業療法士協会	2 ポイント	
日本言語聴覚士協会	1 ポイント	
日本糖尿病療養指導士認定機構 (臨床検査技師・理学療法士のみ)	1 単位	発表：2 単位

※その他は，各学会・団体へ各自でお問い合わせください。

講演一覧

6月8日(木)

時間	会場	種別	演題名	演者	座長	リハ学会 単 学位	日整会 単 学位
8:40-9:40	1	特別1	地域包括ケアの原点とその後の展開～寝たきりゼロから介護予防、システム構築まで～	山口 昇	浜村 明德	○	13, Re
	4	特別3	パーキンソン病と電気刺激療法	伊達 勲	中馬 孝容	○	8
	13	教育6	身体障害者とうつ状態	先崎 章	原 寛美	○	13
9:50-10:50	8	教育1	サルコペニアとリハビリテーション	吉村 芳弘	染矢富士子	○	1, 13, Re
	13	教育7	高齢者の嚥下障害	藤谷 順子	藤島 一郎	○	—
11:00-12:00	3	招待1	Evidences of Stem Cell Therapy on Tendinopathy	Sun Gun Chung	佐浦 隆一	○	1
	8	教育2	高次脳機能障害の臨床：特に社会行動障害について	村井 俊哉	豊倉 穰	○	13, Re
	13	教育8	脳画像診断の基本：リハビリテーション医は何をみるか？	宮井 一郎	安保 雅博	○	1
12:10-13:10	1	ランチョン1	片麻痺患者の歩行練習とロボット支援	才藤 栄一	石川 誠	○	—
	3	ランチョン2	地域包括ケアシステムにおけるRA 医療・ケアの問題点	佐浦 隆一	棗田 将光	○	—
	5	ランチョン3	転倒・骨折予防のためのロコモーショントレーニング	河村 顕治	千田 益生	○	—
	6	ランチョン4	片麻痺上肢のロボットリハビリテーション	道免 和久	蜂須賀研二	○	—
			片麻痺上肢のロボットリハビリテーション	竹林 崇			
	8	ランチョン5	腎臓リハビリテーション：負荷量可変型エルゴメータなどによる運動療法の実践	三浦 美佐	上月 正博	○	—
	12	ランチョン6	浴室空間における動作解析から捉える安全性について	出江 紳一	藤谷 順子	○	—
13	ランチョン7	運動療法に蛋白質補充は不可欠である	田島 文博	久保 俊一	○	—	
13:20-14:10	1	会長	地域包括ケアシステム推進の課題：筋収縮へのこだわりを持ち続ける	椿原 彰夫	浅見 豊子	—	—
15:00-16:00	1	特別2	iPS 細胞を用いた脊髄再生医療	中村 雅也	田島 文博	○	1, 7, SS
	8	教育3	がん患者のリハビリテーション	塚本 芳久	辻 哲也	○	13, Re
	13	教育9	多職種連携におけるコーチングの有用性	道明 道弘	出江 紳一	○	13
16:10-17:10	8	教育4	スーパーマイクロサージャリーによるリンパ管静脈吻合術による四肢リンパ浮腫の治療	長谷川健二郎	関 勝	○	1
	13	教育10	障害者と医療福祉制度について	杉原 勝宣	高岡 徹	○	14-4
17:20-18:20	8	教育5	脳卒中急性期治療の update	宇野 昌明	山田 深	○	1

講演一覧

6月9日(金)

時間	会場	種別	演題名	演者	座長	リハ学会 単位	日整会 単位
9:10-10:10	8	教育 11	筋電義手における導入と活用のポイント	浅見 豊子	徳弘 昭博	○	—
	9	教育 18	脊髄損傷の呼吸リハビリテーション	土岐 明子	古澤 一成	○	7, 13, SS
	11	招待 5	Evidence Based Practice on Spasticity in Children with Cerebral Palsy	Heakyung Kim	下堂蘭 恵	○	3, 13, Re
9:20-10:20	1	特別 4	基本から考える変形性膝関節症のリハビリテーション	久保 俊一	尾崎 敏文	○	12, 13, Re
	3	特別 5	反復磁気刺激を用いた最新治療	正門 由久	生駒 一憲	○	13
	4	特別 6	リハビリテーション科卒後教育の課題：新専門医制度に向けて	芳賀 信彦	小林 一成	○	14-4
10:20-11:20	8	教育 12	リハビリテーションにおける動作解析	小林 龍生	大田 哲生	○	13, Re
	9	教育 19	リハビリテーション医学における臨床研究のあり方	加賀谷 斉	松永 俊樹	○	13
	11	招待 6	Advancement in swallowing evaluation and management-National Taiwan University Hospital experience	Tyng-Guey Wang	青柳陽一郎	○	13
11:30-12:30	8	教育 13	下肢切断と義足の基本	木村 浩彰	水落 和也	○	13, Re
	9	教育 20	Entrapment neuropathy	藤原 俊之	和田 直樹	○	8
	10	招待 2	Balance rehabilitation after stroke, beyond the only motor deficiencies	Alain Yelnik	長谷 公隆	○	13, Re
	11	招待 7	Pulmonary Rehabilitation: Non-invasive respiratory care	Seong Woong Kang	花山 耕三	○	13
12:40-13:40	1	ランチョン 8	地域包括化システムにおける脳卒中後痙縮治療 チームで挑むボツリス治療	佐々木 庸	浅見 豊子	○	—
			地域包括化システムにおける脳卒中後痙縮治療 チームで挑むボツリス治療	君浦隆ノ介			
	3	ランチョン 9	Stroke-related dysphagia - screening, instrumental assessment and what else?	Rainer Dziewas	才藤 栄一	○	—
	5	ランチョン 10	痙縮治療のマネージメント	内山 卓也	小林 一成	○	—
	6	ランチョン 11	神経筋疾患における MI-E の実際と、他領域への応用	三浦 利彦	氏家 良人	○	—
			急性期における MI-E の活用	横山 仁志			
	8	ランチョン 12	脳卒中類似疾患としての非痙攣性てんかん重積 (NCSE) : MRI (DWI/ASL) による病態解析	森岡 隆人	安保 雅博	○	—
	11	ランチョン 13	脳血管障害後遺症患者の半身不随に対する補中益気湯の効果	福村 直毅	海老原 覚	○	—
COPD 患者の呼吸リハビリテーションにおける補中益気湯の意義			濱田 泰伸				
13	ランチョン 14	ボツリス治療	正門 由久	佐伯 覚	○	—	
13:50-14:50	8	教育 14	COPD のリハビリテーション	宮崎 博子	菅 俊光	○	—
	9	教育 21	慢性疼痛の最新療法-神経障害性疼痛に対する脊髄刺激療法	上利 崇	川手 信行	○	—
	11	招待 8	Music and Dance Encourage Social Competence and Integration Music and Mind in NeuroRehabilitation	Klaus Rüdiger Helmut von Wild	角田 亘	○	—
15:00-16:00	8	教育 15	発達障害のリハビリテーション	橋本 圭司	高橋 秀寿	○	13
	9	教育 22	英語論文の書き方	小山 哲男	道免 和久	○	14-5
	11	招待 9	Guidelines on spasticity treatment	Jorge M. C. Lains	里宇 明元	○	—
16:00-17:00	13	特別 7	腎臓リハビリテーションの効果と実際：運動制限から運動療法へ	上月 正博	宮越 浩一	○	13
16:10-17:10	8	教育 16	高次脳機能障害・発達障害のある子どもの就学・復学支援	坂爪 一幸	中島八十一	○	13
	9	教育 23	ポストポリオ症候群	佐伯 覚	沢田光思郎	○	8
	10	招待 3	Understanding Multiple Sclerosis: Three Paradigms	George H. Kraft	椿原 彰夫	○	8
	11	招待 10	Neurostimulation to enhance swallowing recovery after stroke - bright future or dead end?	Rainer Dziewas	前島伸一郎	○	—
17:20-18:20	8	教育 17	関節リウマチの治療 update	守田 吉孝	白倉 賢二	○	6, R
	9	教育 24	臓器移植とリハビリテーション	千田 益生	中村 健	○	13, Re
	10	招待 4	Diagnosis and Prognosis of Traumatic Nerve Injuries	Larry Robinson	藤原 俊之	○	8

講演一覧

6月10日(土)

時間	会場	種別	演題名	演者	座長	リハ学会 単位	日整会 単位
9:00-10:00	10・11	規程(感染対策)	肺炎の診断と治療—高齢者・障害者の誤嚥性肺炎：医療・介護関連肺炎を中心に—	沖本 二郎	依田 光正	○	—
9:10-10:10	8	教育 25	投球障害肩の診断とリハビリテーション	原 正文	志波 直人	○	2, 13, S
	13	特別 10	災害におけるリハビリテーション関連組織の役割—熊本地震を振り返って—	浅見 豊子	木村 浩彰	○	—
9:20-10:20	1	特別 8	心臓リハビリテーションの現状と将来展望—リハ医に期待すること	後藤 葉一	水間 正澄	○	—
10:10-11:10	10・11	規程(医療倫理)	終末期ケアにおけるリハビリテーションと倫理的課題	大田 仁史	武澤 信夫	○	—
10:20-11:20	3	招待 11	Diagnosis and management of post-stroke oropharyngeal dysphagia: from compensation to the recovery of swallowing function	Pere Clavé	加賀谷 斉	○	13
	8	教育 26	最新の骨関節疾患のリハビリテーション	馬庭 壯吉	和田 郁雄	○	2, 13, Re
	13	特別 11	骨関節の動き方を知ってリハビリテーションに活かしましょう	菅本 一臣	三上 靖夫	○	1, 13, Re
11:20-12:20	10・11	規程(医療安全)	脳卒中の院内発症への対応：課題と解決への試み	八木田佳樹	岡島 康友	○	—
11:30-12:30	3	招待 12	Bain Machine Interface for people with severe disability	Moon Suk Bang	芳賀 信彦	○	—
	8	教育 27	透析と骨関節障害	田中 雅人	武居 光雄	○	4
	13	特別 12	レセプトデータからみたりハビリテーションの現状	松田 晋哉	近藤 国嗣	○	14-4
12:40-13:40	1	ランチョン 15	回復期リハビリテーション病棟における摂食・嚥下・栄養のチームアプローチ	岡本 隆嗣	水間 正澄	○	—
	3	ランチョン 16	アスタキサンチンの脂肪肝・NASH に対する作用 サプリメントのリハビリへの応用	太田 嗣人 桜田 真己	神崎 恒一	○	—
	6	ランチョン 17	下肢装具療法による運動学習に基づいた歩行再建	長谷 公隆	三上 靖夫	○	—
	7	ランチョン 18	呼吸リハビリテーションの最前線～新評価から包括的アプローチまで～	海老原 覚	中村 健	○	—
	8	ランチョン 19	リハが変わる、医療が変わる—医原性栄養障害の制御と攻めの栄養管理で ADL 向上を目指す回復期リハ栄養	吉村 芳弘	高島 英昭	○	—
13:50-14:50	4	特別 9	脊髄損傷の包括的治療とバラスポーツ	加藤 真介	住田 幹男	○	7, SS
	9	教育 28	脳卒中リハビリテーション診療の基本；リハビリテーション医は何をみるか？	前島伸一郎	大橋 鈴世	○	13
15:00-16:00	4	指導医 1	自験例から考える脳機能画像とリハビリテーション—指導医の知っておくべき知識—	安保 雅博	石合 純夫	○	—
	9	教育 29	関節疾患リハビリテーション診療の基本；リハビリテーション科医は何をみるか？	佐浦 隆一	和田恵美子	○	13, Re
16:10-17:10	4	指導医 2	運動学習に関して指導医が知っておくべき知識	道免 和久	影近 謙治	○	—
	9	教育 30	脊髄疾患リハビリテーション診療の基本；リハビリテーション医は何をみるか？	和田 太	大串 幹	○	—